

=====  
GCOE NewsLetter  
[No.25 2009/10/23]

ヴァンサン・ヴィヴェス氏の招聘について  
gCOE講演会の開催について  
次回のオープンレクチャーについて  
平成21年度第2回大学院学生海外派遣事業の審査結果について  
gCOE講演会（ロジエ＝カタシ教授）の要約  
第21回オープンレクチャーの要約  
グローバルCOE研究教育員ブリーフィング要約  
gCOEスタッフ海外出張報告  
就職のお知らせ

=====  
■ ヴァンサン・ヴィヴェス氏の招聘について

gCOEではフランス・プロヴァンス大学のヴァンサン・ヴィヴェス准教授（十九世紀フランス文学専攻）を2009年11月16日～23日の期間、招聘します。講演会とオープンレクチャーが予定されているので、下記をご覧ください。

=====  
■ gCOE講演会の開催について

ジョージ・ヒューズ（元東京大学教授）

題目："England and Englishness : The Modern Problem of an English Identity"

「1930～40年代のイングランドを遡及する」

日時：2009年11月12日 午後5時30分より

場所：文学研究科大会議室

使用言語：英語

ヴァンサン・ヴィヴェス（プロヴァンス大学准教授）

題目：「マラルメ、ヴェルレーヌ、ランボー、ロートレアモン——十九世紀フランスにおける詩的言語の革命」

日時：2009年11月17日（火）午後5時より

場所：文学研究科大会議室

使用言語：フランス語（通訳なし）

---

## ■ 次回のオープンレクチャーについて

---

2009年11月18日（水）18:00～ 名古屋国際センタービル15F GCOEオフィス

講演者：ヴァンサン・ヴィヴェス（プロヴァンス大学准教授）

題目：「ロマン主義——哲学と美学」

使用言語：英語

---

## ■ 平成21年度第2回大学院学生海外派遣事業の審査結果について

---

今回は該当者なしと決まりました。海外派遣については追加募集を行う予定です。詳細はWebおよびメーリングリストで連絡します。

---

## ■ gCOE講演会（ロジエ=カタシ教授）の要約

---

講演者：イレーヌ・ロジエ=カタシ教授（パリ第7大学、高等研究院（EPHE））

題目：「意図、慣習、言語的遂行性。聖別定式書と宣誓に関する中世の諸議論」

（Intentions, conventions, performativity: medieval discussions about sacramental formulas and oaths）

日時：2009年9月24日（木）午後5時～7時

場所：文学研究科大会議室

ある表現がもつ文字どおりの意味、意図された意味、社会の中で通用する意味の区別という現代の語用論と関わる問題を、13世紀以来の宣誓、約束、聖別定式の理解をめぐる中世思想家たちのさまざまに異なる立場の内に見届けていく。アウグスティヌスは「嘘」を「欺こうとする意図をもって虚偽を表わすこと」と定義し、話者の意図を重視したが、しかしその後、語られたことの虚偽（言葉それ自体に関わる）と語る者の虚偽（意図に関わる）が明確に区別され、どちらに重点を置くかということが議論の焦点となっていく。

中世においては、例えば宣誓や儀式における定式は、神という存在を証人とし、その前で、自分の言明が真であると主張する行為である点で、発話の真偽の問題に関して非常に興味深い論点を提供するものであった。司祭が洗礼を授けるとき、その洗礼の有効性は、語られた言葉に依存するのか、それとも司祭の意図に依存するのか？ 前者だとすれば、司祭が何らかの理由で言い間違えたとき、洗礼は無効になるのか？ 後者だとすれば、司祭の意図はわれわれには知りようがないという問題が生じる。こういう状況で採用されるようになったのが、教会それ自体の意図、および発話に付与される一般の用法を重んじる立場であった。これらの問題は、偽り

の誓い、結婚における聖別定式との関連でも、示唆に富んだ諸々の立場を生むことになった。とくに結婚は、一人ではなく二人の人間が、神と会衆の前でたがいに宣誓するという点で、さらに複雑な要素を含むことになる。

ロジエ＝カタシ教授は、中世哲学の専門ではない聴衆に対しても非常に分かりやすく、かつ興味深く、最近のオバマ大統領の就任式における定式の言い間違いが生んださまざまな議論をもエピソードとして加えつつ、神学、哲学、レトリック、文学、法律などの広い領域におけるテキストとその解釈について、非常に示唆に富む講演をしてくださった。

(文責・金山弥平)

---

## ■ 第21回オープンレクチャーの要約

---

2009年10月21日(水) 18:00～19:00 名古屋国際センタービル15F GCOEオフィス  
講演者：重見晋也(文学研究科准教授 フランス文学・電子テキスト学)  
題目：「もう一つのテキスト布置構造 - ポール・リクールの場合-」

ポール・リクールが『時間と物語』の中で展開した「ミメーシス」過程は、物語における出来事の組み立てとしてのミュトスの創造を担うミメーシスIIを中心に、前過程としてのミメーシスIと後続過程としてのミメーシスIIIに分節される。

ミメーシスIIは物語作者がテキスト化を達成する以前において世界における行動を概念的、象徴的、時間的という3つのレベルで先行理解する過程であって、その役割は「先形象化 *prefiguration*」と呼ばれる。先形象化の結果に基づきテキストはミメーシスIIにおいて物語の「統合形象化 *configuration*」を果たすが、それは出来事の継起に意味を与えたり、範列的な構成要素を連辞的な全体に統合したり、年代順的時間を非年代順的時間に変換するといった、媒介機能によって特徴づけられている。

統合形象化の媒介機能は、読者による読書行為を通じて、物語を読者へと媒介する機能も果たすが、それはミメーシスIIIという過程として措定される。ミメーシスIIIは読書行為を通じて物語の「再形象化 *refiguration*」を果たすが、その内実は、カント的構想力による物語理解によってと同時に読書行為を通じた沈澱作用と革新作用による伝統あるいはパラダイムの形成とパラダイムに依拠した「読者の期待の地平」によって特徴づけられている。

こうしたミメーシス過程は解釈学的循環によっても特徴づけられている。それは「理解」、「説明」、「適用」という三つ組構造に規制されつつ、特に文学的解釈においては、読者の期待の地平を伴う素朴な第一次理解から出発して、満たされていない意味への期待によって突き動かされる第二の読解を経由し、最終的には歴史的文献学的方法を用いる「歴史的」な第三の読解へと至る、構造化された循環である。

以上のように、リクールにおけるconfigurationは、筋立ての生成から受容までのプロセスの力動性を強調するモデルとして理解することができるが、リクールの同書における関心がミメーシス過程の解明にあるわけではないため、ミメーシスIからIIIまでの各段階で仮定されている各レベル同士が厳密に対応させられないまま、configurationの媒介機能によって変換されるとされるなど、整合性に欠ける部分もある。本グローバルCOEプログラムの研究全体が、リクールのモデルの乗り越えに果たす役割も大きいのではないかと考えている。

---

■ グローバルCOE研究教育員ブリーフィング要約

---

第15回ブリーフィング（2009年9月24日）  
前澤大樹「不連続AP構文とtough構文」

本発表では、前回扱った不連続AP構文の分析をより多くのクラスの形容詞へと拡張することを試みた。(1)に示すような、ここで不連続AP構文(discontinuous AP constructions, DAPC)と呼ぶ構文は、理論的な検討や分布の観察に基づけば、補部を伴う形容詞による後位修飾構文(2b)に平行的な基底構造を持ち、(3)で主要部名詞の移動が適用されない場合に(2a)のDAPCが得られると結論できる。この分析の下では、DAPCが可能なのは主要部名詞が形容詞よりも低い位置に生成される場合のみということになる。ここで、(4)のようなDAPCが可能なことに着目すると、tough構文に対する(5)の2つの分析のうち、(a)が正しいことが示唆される。tough構文で観察される再構築効果は、これを支持するように思われ、(4)に対して(6)の構造を与えることができる。一方でtough構文の量化主語が再構築できないことは、対応するDAPCで限定詞として不定冠詞のみ許されるという制約に構造的な説明を与える。このように、tough構文の構造に対しても、異なる観点からの知見を得ることができた。

- (1) a similar car to mine
- (2) a. a sure candidate to win  
b. a candidate sure to win
- (3) a [aP candidate<sub>i</sub> a [AP sure [TP <sub>ti</sub> to win]]]
- (4) a difficult passage to play
- (5) a. Johni is easy [CP <sub>ti</sub> C [TP PRO to please <sub>ti</sub>]]  
b. Johni is easy [CP Opi C [TP PRO to please <sub>ti</sub>]]
- (6) a [aP a [AP difficult [CP passage<sub>i</sub> C [TP PRO to play <sub>ti</sub>]]]

---

■ gCOEスタッフ海外出張報告

---

松澤和宏（gCOE研究担当サブリーダー・フランス文学）

パリ東大学でのGCOE国際研究集会（2009年3月）報告書刊行の打ち合わせ、および博士課程後期課程の大学院生の学術交流に関する協定、グローバルCOEプログラム拠点における実施細則に関する打ち合わせを、パリ東大学にて8月28日、9月1日に行った。

池内敏（gCOE事業推進担当者・日本史学）

「近世日朝外交文書研究のための史料調査」

9月23～27日、韓国国史編纂委員会（韓国京畿道果川市）および韓国国立中央図書館（同ソウル市）において、標記の史料調査を行ってきました。

近世日朝間の外交文書作成に関わっては、1635年から以酌庵輪番制と呼ばれる新たな文書作成制度が導入されたことが知られています。今回の史料収集は、そうした制度導入以前における外交文書作成が、どのようになされていたかを解明するための作業です。以酌庵輪番制導入以後に作成された日朝外交文書が『本邦朝鮮往復書牘』なる記録にほぼ網羅的に収録されているのに対し、導入より前に作成された文書は体系的な整理がなされていません。1680年代ころに編纂された『善隣通書』には、そうした1635年以前の外交文書が採録されており、網羅的にというわけにはいきませんが、以酌庵輪番制導入より前における日朝外交文書を検討する素材となります。そこで、国史編纂委員会では、同所蔵の対馬島宗家史料『善隣通書』をマイクロフィルムで閲覧し、筆写および複写して史料収集しました。

一方、外交文書の往復は具体的な折衝事案にともなって作成されます。国立中央図書館では、近世日朝間における代表的な外交折衝事案である元禄竹島一件にかかわる韓国側での最新の研究成果を検索し、必要なものについて複写収集を行ってきました。

鎌田隆行（gCOE事業推進担当者・フランス文学）

「国際シンポジウム「作家と印刷業者」への参加」

10月8日～9日にフランス、ル＝マンのメーヌ大学で開催された国際シンポジウム

「作家と印刷業者」に発表者として参加した。同大学のアラン・リフォー氏を学術責任者とするこの研究集会は、近代以降、一般的に作者に帰せられてきた文学作品の制作と公開において印刷者が果たしてきた役割について、書物史の研究者と文学研究者が歴史的視座のもとに考察することを目的としたものである。二日間で二十名が発表する密度の高いプログラムが組まれ、書物史研究の泰斗フレデリック・バルビエ氏の基調講演に始まり、フランス、ベルギー、スイスなど各国の研究者による、扱う時代や地域が異なる多様な報告と討論が行われた。二日目の午後に発表した拙論では作家＝印刷者としてのバルザックを主題とし、本格的な作家活動に入る前に印刷業を営んだ経験を持つこの小説家が、その印刷技術の知識を応用して独自の執筆方法のみならず、小説内での広告や新聞記事などの現物表象的テクストの美学的な提示を発展させていったことを作品の生成資料に基づいて論じた。書物の物質性の問題のエキスパートである研究者たちと率直な意見交換を行うことができ、

多くの示唆を受けた。

けだし、従来型の生成論は印刷段階の手前である草稿を特権視してきたために、書物史との直接的な接点を持たなかったが、バルザックの作品生成論のように「印刷物のジェネティック」（ヴァッション）を志向するやいなや、書物史との関わりは必須となる。だがそれにもかかわらず、両者の関係については管見の限りまだ本格的に論じられていない。今回の意見交換を奇貨として、今後この問題の考察に取り組みたい。

---

■ 就職のお知らせ

---

グローバルCOE研究教育員の品川大輔さん（言語学）が2009年9月30日をもって退職し、同10月1日より、香川大学経済学部専任講師として着任しました。今後のいっそうのご活躍を祈念致します。

次回のメール版NewsLetterの発行は2009年11月中旬を予定しています。

.....

GCOE「テキスト布置の解釈学的研究と教育」  
Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration  
<http://www.gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp/>

---

NewsLetter No.25

発行：GCOE編集部

編集担当：鎌田隆行

Copyright(C) 2009 NAGOYA UNIVERSITY, GRADUATE SCHOOL OF LETTERS

.....